

蓬萊町だより

第三十五号
第5年4月20日
平成5年蓬萊町
発行集文部

蓬萊町界隈（その三十）

「振袖火事」の火元は本郷丸山

林 順 信

●江戸の大半が灰になった

前回は江戸は東京の原点で、その十大特色の第二番目に、江戸は世界第一の火災多発都市だったことにふれた。

江戸の歴史年表を眺めると、それはまるで火事の発生年表にひとしい位火事があった。人によつては火事は三百回とも四百回とも言う位だ。その中での江戸三大火事というのがある。

- ①明暦三年 本郷丸山本妙寺（振袖火事）の火事
- ②明和九年 目黒行人坂の火事
- ③文化三年 芝牛町の火事

右の三大火事のうち二番目の火事は語呂合わせから「めいわくの火事」などと言われている。明暦三年というのは、殆んどの人が「めいれき三年」と発音しているが、山田孝雄先生の説によれば「めいりやく三年」と読むべきである。

だって比叡山の方は延暦寺を「えんれきじ」と呼ぶ人がいるだろうか。脱線ついでに言及すると、八代將軍の享保は「きょうほ」ではなく「きょうほう」と読むのが正しいそうだ。だって天保を「てんぽ」と言う人があったら、それこそ「天保録」と言われるぞ。

閑話休題、明暦三年（一六五七年）の江戸大火は、四百三年の江戸東京の火事の中の最大のものであった。

正月も十八日は朝からの大風だったが、午後二時半頃に、本郷丸山（現在の本郷通りのルオ一喫茶店、巴そば店の西の表にある本妙寺坂になった日蓮宗本妙寺）から出火、折りからの西北の強風にあおられて、駿河台から神田橋、更に一石橋から八丁堀、霊岸島、さらに大川の石川島と佃島まで及び、江戸の大商店、問屋の街々は灰と帰した。

ところが翌十九日は、伝通院裏手から出火して、水道橋の水戸家上屋敷から北神田にうつり、遂に江戸城に引火、本丸、二の丸、三の丸を焼け尽くして、この時、安土桃山風の五曾の江戸城天守もあえなく焼け落ちた。

ところがこの日の夜になると、麹町から火の手が上がって、桜田一带から、京橋、木挽町をはじめ、鉄砲洲へと火の手は伸びて海まで行ったところでやっと鎮火した。

二月（三月にわたった大火で、江戸中の五百

余町を焼き払い、死者十万余人と記録されている。四代將軍の時代、江戸の総人口は三十五万人といわれているのに、犠牲者十万人はいかに多い。機械文明の危険物の多い現代と異って、焼けるものは木材や草木なのに、三人に一人が亡くなるとは多過ぎやしないかと思うが、二十一日に江戸を大吹雪が襲い、食糧をはじめあらゆる物資が欠乏して凍死した者が数万人も出て、焼死者と合わせて十万人という。因みに今から七十年前の大正十二年の関東大震災のときも、焼死者十万人といわれ、昭和二十年三月十日の大空襲でも犠牲者は十万人といわれていて、江戸、東京の大火災では十万人ずつが亡くなったことになる。この時、小伝馬町の牢屋の責任者石出帯刀は大英断で科人を解き放った。

「お前達はこのままでは焼け死んで了うだろう。科人といえども焼き殺しては忍びない。今から解き放ってやるから、火が鎮まって命が助かったらば、下谷のれんけい寺へ戻って来い。戻って来た者どもは、石出帯刀が身に代えてもお前たちの命乞いをお上に申し立ててやる。若しもこの約束を破った者は、雲の果てまで探し出して、厳罰に処するぞ。」

火が鎮まった二十日朝に、下谷のれんけい寺に戻らなかった者はたった一人であった。

この時流言飛語で、罪人たちが一整に逃げて来るというので、浅草橋御門を番人たちが閉ざ

してつった。多くの町人どもがここで逃げられず、二万人が焼け死んだといわれている。このとき隅田川に架かる橋は千住大橋しかなく、橋がないために、熱河と化した神田川や隅田川に飛び込んで犠牲になったという。この大きな代償を払って、大火後やっと両国橋は架けられた。しかもその費用はほとんど町民の出費によるものだった。

明暦大火で亡くなった十万七千四十人を、貴賤の別なく、宗旨の別なく、本所の五十間四方の地に埋葬した。現在の本所の総宗山回向院である。

●本妙寺出火の謎

この火元の丸山本妙寺については、昔から一つの秘話が伝えられている。

桜も満開の四月のある日、下谷の紙商の大増屋十右衛門の店では、一家総出で上野の山に花見に赴いた。池之端の薬屋金丹圓の店先で、娘のきのは、寺小姪の美少年を見染め、それからというものの、美少年が着ていた紫縮緬の荒磯に浜千鳥模様の振袖を親にねだって拵えてもらった。きのは、その縮緬を人形にまで着せて、夫婦あそびをするほど焦がれていた。ところが、娘は寺小姪にも会えず、恋の病で床についてしまった。明暦元年一月十六日に十七歳の命を花に散ってしまった。

両親は娘きのの心を哀れに思い、紫縮緬の振袖をお棺にかけて、本郷の丸山本妙寺に葬った。お寺では三十五日の法要が終ると、その紫縮緬を古着屋に売り払った。

本郷元町の麴屋吉兵衛の娘いくは、古着屋でその紫縮緬の振袖を買って貰って喜んで着ていたが、病の床につき、いくも十七歳という短い生涯を終えたのが明暦二年一月十六日、両親は娘のお棺の上に紫縮緬の振袖をかけて本妙寺に葬った。

一年前に亡くなった紙屋大増屋両親は娘きのの祥月命日の供養で本妙寺に来ると、

「あれっ、見覚えのある振袖が……？」と首をかしげたが、ふしぎなこともあるものと、その日は店に帰って行った。

その紫縮緬の振袖は、再び古着屋に先られた。ところが、麻布の質屋伊勢屋五兵衛の娘で十六歳の梅野がその振袖をいたく気に入って親にねだって買って貰った。梅野は振袖に一、二度手を通しただけで病の床に伏して、明暦三年の一月十六日、十七歳の一生を終えた。伊勢屋の両親も同様に、お棺に紫縮緬の振袖をかけて、本郷の丸山本妙寺に葬った。

三回忌の法要に本妙寺に来ていた紙屋十右衛門夫妻と、丁度一周忌の供養にお寺にお参りにきていた、麴屋吉兵衛夫妻も、その紫縮緬の振袖を見て愕然とした。不思議な因縁に恐ろしく

なって、和尚に事の次第を打ち明けて、三家で供養をして、その振袖を焼き払って貰うことにした。

明暦三年一月十八日、丸山本妙寺の本堂で、和尚はお経を読みながら、護摩の火に因縁の振袖を投げ込んだ。

ところが、突如として一陣の強風が起り、その振袖は火の粉を撒き散らしながら、空へ舞い上がって、火の手が本郷から南京へと伸びて行って、遂には未曾有の大火となった。

「二度あることは三度来る」との世の俚言そのままの不思議な怪火であった。

●その後二世紀半を経ての怪事

明暦の大火は、それまでの江戸から第一次都市計画が実行され、広小路など火除地の設置、神田や八丁堀辺にあった多くの寺院を谷中、本郷、四谷などへ集団的に移転を計った。

蓬萊町の高林寺はじめ、吉祥寺など数多の寺々が現在蓬萊町界隈に多い所以である。

そして、それまで上方からの文化だった江戸に、やっと根生いの独特の文化が芽生えるきっかけを作った。

この三世紀半も前の奇怪な出来ごとは、話が出来すぎてはいないかと言う人がいたら、次の事実を聞かされたら愕然とするだろう。

本妙寺は江戸期はそのまま残り、明治期になって巣鴨の方へ移転した。その跡に、順天堂のドクトル佐藤尚中の奥さんの佐藤志津の女子美が弓町から移転して来た。その隣には附属の佐藤女学校が戦災で燃えるまでであった。藤色の下見板張りの木造西洋館として、我々本郷っ子

には印象深いものがあった。

戦後はその本妙寺坂の東側の跡地に本郷税務署が建った。今から二十年ほど前になるが、就任の税務署長が重い病で亡くなった。その後任の署長も赴任してから半年ほどで病で亡くなった。その後任の署名も赴任して来て僅かの月日で亡くなった。そうになると、後任の署長は本郷税務署へは来たくないということになった。旧本郷区じゅうの僧侶が集まって護摩をたいて、そのいまわしい事態に対処したことは、ある僧侶から伺った話である。その後税務署は、春日町の区設真砂市場の東隣りに移転して行った。丸山の跡地には税理士会館が新たに建てられている。

月世界に人間が到達する文明の世の中にも、科学では解けない大きな謎がひそんでいるとしか言いようがない。

本郷丸山本妙寺にかかわる今までの多くの方々の霊に合掌しながら筆をおく。

町会活動の概要

平成4年11月から平成5年3月中旬まで

総 務 部

- 11/2下水道工事説明会、汐見小学校にて、(東京都施工分)
- 11/11地下鉄、シールド掘削工法について説明会、開催される。
- 11/25東大農学部前地下鉄工事対策協議会、開

催される。

- 11/29向丘地区町連共催の「ドッチボール大会」開催される。

- 12/1公衆便所改修工事(長元寺堀際)に着手、3月末には完成の運びになっています。

- 12/18歳末夜警、本日から29日まで延べ12日間実施いたしました。

- 12/20門松「絵びら」を地域役員を通して各会員宅に配布する。

- 12/16本駒込地区、地下鉄工事対策協議会、開催される。

- 1/13、28までの間、新年恒例の行事として文京区町会連合会を始め防火、防犯、交通等の各団体が主催する新年賀詞交歓会は計7回でしたが、各部に割り当てて消化しました。

☆広沢町会長の辞意に伴う、会長選出人事については、2月の定例役員会に諮り、左記のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

- 一、蓬萊町会、会長の改選(平成5年4月1日付) 旧 広沢長次郎 新 小林音吉

防火防災部

- 11/8文京区役所並びに本郷消防署共催による「防火コンクール」を文京六中校庭で行われた。

- 12/1文京区役所から「大型消火器」一基貸与される、今回の貸与された消火器は榮松院門前(北部)に設置しました。

- 3/1、7「春の全国防火運動」実施される。

- 3/5町内の「防火診断」本郷消防署員により実施される。

昨年中、本郷消防署管内で発生した火災は31件、この件数は前年に比較し、15件減少していますが、逆に焼失面積は増加しています。この事は、一旦火災になると全焼してしまうケースが多いと言う悲惨な現状を物語っています。火を出さないようにお互いに気を付けましょう、それでも避けがたいものに放火があります。皮肉な事にこの放火が火災原因の第一位ですからね、放火を防ぐには、家の周辺を常時注意して、燃える様なものは置かない、置かれない様にするのが未然に防ぐ一番良い方法です。

防 犯 部

- 11/24当町会の防犯活動が評価され、この度、駒込防犯協会から町会に対して感謝状が授与されましたが、それでも空巢などの被害は多々あるようです、油断せず戸締まりを確実にして下さい。

交 通 部

5/16「春の全国交通安全運動」が実施されました。

交通事故は無理と油断、当旬間中には町会の交通部、婦人部友の会会員の皆さんが連日、街頭で交通安全の啓蒙に努めて戴きました、事故の皆無は私達の願い、運転者は無謀な運転を慎み、歩行者も無理な横断などお互いに注意をしたいですね。

文 化 部

1/15本年「成人式」をお迎えの方々に心よりお慶びを申し上げます、当町会では19名と多数の方が成人をお迎えになられまして誠に力強い限りでございます。皆様の故郷であるこの町が、益々住み良い所になるように、皆様の若い力と斬新な知識を町会諸事業に活かして戴ける様、大きな期待をもってお願い申し上げます。

ささやかな品ではございますが、町会より成人をお迎えの皆様にご記念品をお贈りさせていただきます。

なお、本年成人をお迎えの皆様のお名前は左記の通りでございます。

記

平成五年 新成人名

藤井 岳穂	高野 正和	荒川 武司
五十嵐照泰	唐木 明子	金子 貴子
宮下 朋子	原 裕子	青木 智子
小山 亮子	小野 友子	石川 恵理
倉田 由季	平林寿美子	宇佐美寿代
竹中 靖恵	石橋由美子	樋口 映美
蜂谷美智子		

4/上旬、本年度、小学校入学の児童の皆さん、誠におめでとうございます。

町会ではお子様の健やかな成長を心より祈念申し上げております、記念に心ばかりの品、お贈りさせていただきます。

該当されるお子様方のお名前は左記の通りでございます。

記

清水麻衣子様	今堀 雅樹様
小林 佳奈様	小林 恵様
佐藤 祥子様	

婦 人 部

12/10「歳末助け合う募金」には、いつもながら皆様の温かいご厚志を賜りまして、左記の金円を募金会に納めております、この募金額は、向丘地区12町会の中では最高の額に当たります。

あらためて皆様のご厚情に深く感謝を申し上げます。

記

一金、二〇二、五〇〇円

☆「廃品回収事業」は、日々増える傾向にあるゴミの減量化への対応と合わせて、廃品を活用して再生させ、利用する事に意義があることは、皆様ご周知のとおりでございますが、当町会で行う事業も皆様の深いご理解により多大の成果を収めております。

現在のところ、「廃品回収」の対象物品は、新聞紙、雑誌、ダンボール、布類、に限られ、ビン、缶類は回収しませんので、かかる事情をご理解戴いて、引続きご協力下さる様お願い致します。

青 年 部

12/18、12/29「歳末夜警」延べ12日間、実施しました。

2/21「座禅と手品の会」浄心寺にて開催しました。

主催、青少年対策向丘地区委員会

2/28「餅つき大会」を開催しました。

町内の皆様に好評を戴いております「餅つき大会」も本年は5回目、朝方までは雨でしたが、開催直前にはすっかり晴れ渡り暖かい行楽日和、参加された方は子供さんを含めて約

二〇〇名と大盛況、炊きあげた餅米は3斗、多少疲れましたが大変皆さんに喜んでいただけて私達も催しをした甲斐がありました。

☆「ストレッチ体操会」は月一回の予定で開催しております。

無理の無い体操ですから子供さんから年輩の方まで幅広く参加出来るよう企画しております、どんなものなのか、試して見ようという軽いお気持ちで是非参加して見て下さい。

計 報

当町会にお住まいの方で、昨年10月下旬から本年3月中旬までの間に、ご逝去なされた方々のお名前は左記のとおりでございます。
謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福を祈念申し上げます。

記

吉田 孝治様 広島 福三様
高村 ミヨ様 秋山 元広様 翁 松夫様



→ 真浄寺門前で
第五回餅つき大会
餅米三斗 参加者約二〇〇名
2月28日 青年部
餅つき大会 婦人部の 皆さん

町会長 挨拶文

蓬萊町会、会長就任挨拶

小林 音 吉

かねてより健康上の理由から会長職を辞退したいとの意向をお申し出に成っておられました。た広沢長次郎氏の後任人事につきましては、2月の定例役員会に於いて、会長選出を議題として協議しました結果、当日出席役員全員のご推挙により不肖私が会長職の重責を担わさせて頂く事と成りました。

何と申ししましても、私などは浅学、老齢と悪い条件揃いで、皆様の付託にお答え出来るような事は至難の技と自負致している次第でございますが、この上は役員、婦人部、青年部、皆様方の全知全能を与えて戴きまして、蓬萊町会会員皆様と共に平穏な町の環境と安寧に努め、合わせて町内全域間の交流と親睦の輪が一層深まる様、橋渡しの役を努めて参る所存でございます。今後共、会員皆様の心暖かいご指導、ご支援を賜ります様お願い申し上げます、町会長就任のご挨拶いたします。

蓬 萊 句 壇

氏神に古木一対梅薫る

すえ

和菓子売る老舗を飾る「遊亀」の梅
幼子の笑顔馳け来る風口和

すえ
すえ

薬売り景物はいつもの紙風船
蛤や節操固く口閉ざす

向雪
向雪

水庭に息つきゆらぐ蝌蚪の紐

向雪

春の歩もひそかに早む夜半の雨
背負籠に草餅ありや問ふて見む
あるとなき風とたわむる柳かな

礼子
礼子
礼子

梅散って待つ人は来ず昏れにけり
参道に香の流るる二月かな
蛤やのんびり舌出し砂を吐く

千重
千重
千重

この辺り竹屋の渡し糸やなぎ
藪明けて春筍の息づかい

連木
連木
連木

焼蛤に仇討たれて舌焼かる
囀りや鳥語解せる如く佇つ

連木
連木
連木

編集後記

四季の中で一番華やいだ季節を迎え、会員皆様にはご多幸にて日々お暮らしの事と遠察申し上げます。

今年は、暖冬であったせいか、桜の開花も幾分早く、見ごろを既に過ぎた様に感じられる今日この頃になってまいりました。

町会事業も新年度に入り、4月から就任された小林町会長と共に役員一同は、相互協力に努めて、より良い町会事業運営にあたる所存でございます。

しかしながら、事業運営の成否は、一重に会員皆様のご支援並びにご協力に委ねるところ大と存じます。

本年もよろしくご支援賜ります様お願い申し上げます。

編集委員

小林音吉、川西正造、竹中一馬、高橋一郎、
猪熊良晃、池田 暉